



No.002

能登北部地域医療研究所

秋

# のとけんだより

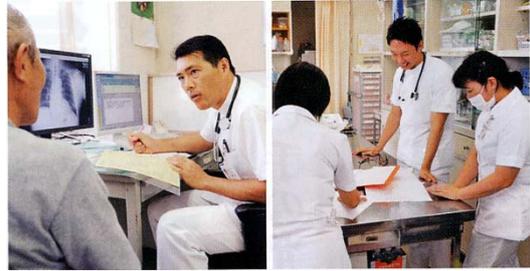


2010.10.1

## ■能登北部地域医療研究所は今！

——能登北部地域医療研究所の方向性——

今年8月にスタートした「能登北部地域医療研究所」には、金沢医科大学の高齢医学科出身の医師2人が在籍しています。中橋先生と能村先生は、普段は内科の高齢医学科の医師として診療に携わっていますが、それ以外に、総合医を育成するという大きな役割を担っています。近い将来、この町に総合医が育成されれば、たとえ医師の数が充分とは言えなくとも、地域住民の方々が満足する医療サービスを提供することも可能になります。これが、私たちが目指す「へき地医療」の姿です。



## ■中橋 Dr・能村 Drに聞く ～就任して2ヶ月 どうですか？～

「能登北部地域医療研究所」就任から2カ月が経ちましたが、順調なスタートですか？

中橋 はい。慣れない部分もありますが、ほぼ予定通りです。新設した高齢医学科外来では、患者さんのライフスタイルを尊重した総合的な診療がモットーなので、初めてお逢いする患者さんとも、病気以外の話もたくさんできるような信頼関係を早く築き上げたいと思っています。

能村 全く同感です。患者さん一人ひとりにマッチした診療を行うためには、患者さんの日常生活や考え方、こだわりなどを知る必要があります。何でも気軽に相談してもらえるといいですね。

## ■病院は元気な若者も集う広場！

——地域医療の担い手の発掘も視野に——

8月からの1カ月は、金沢医科大学研修医2年目の荒山わかかなさんが初期臨床研修プログラム「地域医療・保健」を専攻し公立穴水総合病院で実習を重ねました。兜診療所(穴水病院から約15km 離れている)での外来診察、



患者さんのご自宅に伺う訪問診療(穴水町明泉寺)なども経験した荒山さんは、「患者さん一人ひとりの生活背景を見ることは、病気やその原因を多角的に捉える良いきっかけになりました」と満足顔。機会をつくって、また地域医療に触れてみたいと抱負を語ってくれました。

.....次回冬号は、へき地医療って何？ 総合医の重要性についてお知らせ致します。

